

熊野屋と文化のみち

～伝統とは昔や古いものを大切にすることだけでなく、
今、受け継ぐ伝統を大切に、守り、育て、そして未来に伝えるということ～

私にとって(そして、きっと誰にとっても)「大切なもの」が文化のみちにはたくさんある。その一つが、この地に根をつけて商いを続けている昔ながらの商店で、赤塚交差点から一本西の「旧善光寺道」を南に入った熊野屋さんまさにそんな店だ。江戸中期、享保10(1725)年創業。かつては尾張藩御用達の(灯火用)油屋であった。

一度ゆっくりお話したいと思っていた十一代目の御当主・熊田博さんに時間をつくっていただいた。

「私どもが扱っている商品、たとえば和歌山から取り寄せている醤油があるのですが、最初に製造元まで行っているいろいろな話を聞かせてもらいました。この醤油がどうやって造られるのか、どんな苦労があるのか。買ってくださる人に造る人の思いを少



熊野屋オリジナル商品には根強いファンがついている。油の缶のラベルは、昭和初期から使用してきたもの。

▲店の奥にしつらえられた「油の資料室」では、江戸時代に使われた油桶、灯火具、鑑札、古文書、地図などを展示。歴史をたどることができる。



▲熊野屋外観。手を入れてはいるが、骨組みは江戸期の建物をそのまま使っている。

しでも伝えたい。〈もの〉の内側にある〈見えないもの〉を知っていただきたいですね。」

熊野屋で現在あつまっているのは、熊田さんがそうやって〈見えないもの〉を求めてたどりついた、「良い食品と伝統食品(昔ながらの製法で作られている調味料やお菓子、自然化粧品など)」。なかでも、名古屋のラムネ屋・塚本鶴次郎のオリジナルレシピで復元された『くまのやグラニュー糖ラムネ』は人気の商品だ。

「文化のみちも同じだと思います。ここには、さまざまな物語がある。それを発掘して、来られる方にわかりやすく見せてさしあげることが必要なのではないのでしょうか。」

移築復元された文化のみち二葉館も、昔の形、昔のものを大切にしながらも、新しい文化をうみだす場所にしてください。「油屋の歴史」と「本物の食べ物」を伝えるご主人に、そんなメッセージをいただいたような気がした。

取材：兼松はるみ 文化のみち二葉館 広報・企画担当



二葉館1階和室には、貞奴が所蔵していた着物が展示してありますが、季節ごとに替わっているのをご存知でしょうか？着物、羽織、帯など、衣類関係・三十数点を川上家より寄贈いただいている中から、季節に合った物を選んで衣替えをしています。
着物は全体的に黒っぽい色合いの地味なものが多いのですが、よく見ると、今では作ることができないような珍しい「織り」であったり、裾に綿を入れて二重にしていたり、とても贅沢で凝ったものであることがわかります。
帯は、絵を習っていたという貞奴の手描きのものもあります。



貞奴手描きの帯

展示替えは、3・6・9・12月の月初め。着物好きの方は必見です。

秋の一日を、文化のみちでお楽しみください。

2006年
11月3日
(金・祝)



昨年の「歩こう!文化のみち」当日の二葉館

毎年文化の日開催される「歩こう!文化のみち」。今年もスタンプラリーをはじめ、盛りだくさんのイベントが文化のみちを舞台に開催されます。ご家族連れで、お友だちと、のんびり歩いてみてはいかがでしょうか。ここでは、二葉館でのイベントを中心にご紹介いたします。

■「着物で歩こう!文化のみち」

着物で参加の先着100名に、二葉館の入館券をプレゼント!

■郷土の文学公開講座

10:30~11:30 2階和室1.2にて

◆司会 郷土の文学研究会
堀内 守氏(名古屋大学名誉教授)

◆講師 郷土の文学研究会
三田村博史氏(中部バンク会長)

■「貞奴ネッサンスー21世紀のモガ達へー 甦った着物たち るびーぶるファッションショー」

15:00~15:40 1階大広間にて

斬新な色柄、上等な質感が今また注目されている、アンティーク着物。その着物地で作った洋服と、着物の新しい着こなしを提案するファッションショーを、開催いたします。

■「東区ちょっといいもの展」

3・4日 10:00~16:30 1階集会室にて

福沢桃介・川上貞奴に関する品々、東区ゆかりの品々の展示を行います。(共催:東区文化のみちガイドボランティアの会)

関連の募集

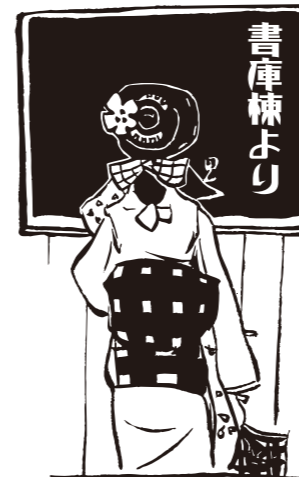
11月3日の当日 ボランティアスタッフを募集しています。

旧豊田佐助邸や、金城学院栄光館などの会場で受付、ご案内などをさせていただきます。普段は入ることのできない建物をじっくり見学したり、たくさんの方とふれ合うことができます。あなたも、ぜひ!

■市政資料館で「文化のみち」にふさわしい展示をしてみませんか。

市政資料館の展示室・集会室スペース(計8室)を利用した展示・ワークショップ出展者を募集します! 「文化のみち」にふさわしいと考えられる内容での応募をお待ちしています。参考資料がある場合は、申込の際に添付してください。

- 展示期間: 11月3日(金・祝)9時30分~16時
- 費用: 使用料などは無料。経費補助あり。(交通費など、5,000円程度)
- 申し込み方法: 所定の様式に必要事項を記入の上、郵送・持参・E-mailにて受付
- 申し込み期間: 8月1日より8月31日(木)まで(必着)
- 申し込み・問い合わせ: 住宅都市局都市景観室
TEL:052-972-2732 FAX:052-972-4160
E-mail: a2732@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp



「見えない糸」文学ボランティア 小澤美智子

むかし、むかし、そのまたむかし、緑の瓦や赤い瓦がやっと目につきはじめて頃、私は東片端の会社に勤める父に、小学校まで送ってもらう日々でした。

途中、坂が上がったところに、ハイカラな赤い屋根の西洋館がありました。それが「二葉御殿」。父の勤める会社の創始者福沢桃介さん、貞奴さんのお屋敷でした。西洋のお話から抜け出たようなお家で、どんなに中を見たか

ったか。しかし希望は叶わぬまま、戦争という悲しい年月を経ることになってしまいました。今、私はその「二葉御殿」の中で文学ボランティアの仕事をさせていただいております。移築復元された「文化のみち二葉館」には文献がたくさんあり、閲覧用の冊子も用意されています。静かに、ゆっくりと一日を過ごしに、そして何度でもおこしいだけますよう、お待ちいたしております。「幸をかみしめて。」